

第8回 兵庫便教会 報告

2015年9月12日(土)、第8回の兵庫便教会を芦屋市立精道小学校にて開催しました。初参加1名を含め、11名の参加をいただきました。初参加のSさんは、教職についていませんが、20年間、民間で働いてきた経験、また子どもを育てる中で、未来を託す青少年に「何か自分ができることはないか」という思いが抑えきれなくなったそうです。市役所などでボランティアを探し、大谷先生との縁を得て、今回の参加となりました。これから高校教師を目指し、たとえ1年でもいいから先生として若者と接したいというSさんの思いを聞いて、感動、そして教師である自分を振り返りました。

西橋先生にリーダーとなっていただきました。いつも心よく引き受けて下さり感謝です。道具説明のあと、男女のトイレに分かれて掃除を始めました。一見綺麗なトイレですが、奥の部分に汚れがあるなど、やるところは沢山あります。自己紹介でのSさんの話に刺激を受けたのか、皆さん深く自分と向き合っているようでした。西橋リーダー曰く、「ものすごく気が充実していました」。

掃除後の交流会では、トイレ掃除の感想とともに、最近学んだことや気づいたことが話されました。私がお聞きした中で印象的だったのは、「常に美しい環境を整えておくから、異変に気づくことができる」という言葉と「不揃いなものを活かす」という言葉です。どちらも教育に置き換えることができ、しかもとても重要な点です。また、便教会のように、志のある人が集まった会では、熱が伝わり、心地よい気分になるが、自分一人でもやっていくことが本当の力となり、広まっていくのではないかという話もありました。そこで、同じ日、同時刻にそれぞれの場所で一人掃除をし、その後交流するといった企画を紹介いただきました。鍵山相談役は何十年もお一人で掃除を続けてこられました。『本物は続く、続けるから、本物になる』(東井義雄) 一人でも続けていく覚悟と実践が共感を生み、広がっていくことにつながるのでしょうか。

今回も西宮掃除に学ぶ会の久井さんに参加をいただきました。参加者の一人は「今日は久井さんの掃除する姿をじっくり見ようと心掛けました」と語っていました。模範となる人が来ていただける兵庫便教会は幸せだと思います。ありがとうございました。(文責：木田重果)

